

学校経営方針 (中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点 (短期経営目標)
<p>京都府立盲学校創立150周年(令和10年度)に向けて、時代のニーズに応じた学校づくりを第2期5カ年計画として目指す。(1年目)</p> <p>1 自立と社会参加を目指した教育活動の推進 【重点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の基盤となる言語活動の充実 ・生涯スポーツにつながる基礎体力の強化 ・職業教育の充実 ・視覚障害を伴う重複障害教育の充実 ・自立活動を中心とした研究活動の推進と校外への発信 ・早期教育(幼稚部)の強化 <p>2 視覚障害教育におけるインクルーシブ教育システムの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・盲学校を中核とする「連続した多様な学びの場」(幼・小・中・高・特支)との交流及び共同学習等の推進 ・京都府視覚支援センターの相談機能(就学前、入学、進路等)の強化 <p>3 共生社会の実現を目指した地域・関係諸機関との連携推進</p> <p>4 安心安全な教育環境を基盤とした学校づくり</p> <p>5 「働き方改革」を踏まえた学校運営</p> <p>6 「京都盲啞院関係資料(重要文化財)」の管理・保存と活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都府立聾学校と連携した150周年記念資料集の編纂及び記念行事の検討 	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍における感染症予防対策を徹底し、安心安全な教育環境を整えた。 ・週二日の中高合同授業を行い、学習集団の確保と授業の充実を図った。 ・関係機関との連携により、施設見学や体験実習及び職場実習、出前授業などを実施し教育活動を充実させた。 ・生徒一人一人の進路保障を目指し、大学等への進学、福祉就労、あはき国家試験合格に向けた補習の実施等に取り組んだ。 ・関係分掌・各学部が連携し、研究研修体制の充実を図った。(実践事例の集積) ・個々の教員の専門性を活かし、地域で学ぶ幼児児童生徒への支援につながる教育相談のケースが増加した。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部間連携を一層進め、生活集団や学習集団を確保することで、社会自立を目指した新たな取組を実施する。 ・関係機関と連携を深め、児童生徒のキャリア教育を推進する。 ・進学や就労後の支援を円滑に継続する。 ・視覚支援センターの取組を充実させると共に、早期教育相談等では視覚障害児療育施設等との連携を一層深める。 ・関係機関への訪問による啓発活動、ホームページの定期的な更新による情報発信に務める。 ・本校の将来構想について、骨格となる基本方針に基づき、令和3年度の学校運営の中で具体的に実施する。 	<p>1 新学習指導要領への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・改訂の趣旨を踏まえた、各学部における授業改善 <p>2 幼児児童生徒少人数化への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部の再編による生活集団・学習集団の確保 ・学部間連携に基づく合同授業の推進 ・ICTを活用した共同学習の推進 <p>3 進路指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア発達を意識した体験学習、実習等 ・社会のニーズを踏まえつつ生徒の実態に適した職場開拓 ・盲学校卒業後の進学・就労等のモデルケースの整理 ・就労後の支援体制の検討 <p>4 ICT教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末等ICT機器や視覚支援機器、点字使用者の情報機器等の活用力の向上と生涯に渡る学習基盤づくり <p>5 視覚支援センターの機能強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種相談体制の整備 ・地域支援の取組に関する情報発信のさらなる充実 ・土曜日を活用した地域支援の取組等 <p>6 安心安全な教育環境の保障</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の状況を前向きにとらえた教育活動の推進 ・教育活動全般における安全な教育環境に係る自己点検の徹底 <p>7 将来構想会議の方針に基づいた計画の実行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来構想会議の継続 ・府内在住の視覚障害幼児児童生徒及び保護者のニーズの把握 ・校内外を問わず支援できる校内体制の整備 ・ICTを活用した盲学校間、地域校・本校間の共同学習 <p>8 視覚障害教育の専門性と指導力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・免許(視覚障害領域)取得の推進 ・複数教員による丁寧なアセスメントと指導・支援内容の検討

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
教育活動 全般1	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害教育の専門性と指導力の向上 ・児童生徒の教育的ニーズの把握、教育内容の明確化と指導方法の工夫 ・学びの連続性を重視した小中高連携 ・職業自立を目指し、キャリア教育の視点に立った進路指導の充実 	【幼小中学部】 <ul style="list-style-type: none"> ・研究研修部と連携し、全校の授業公開及び研究授業をとおし、新学習指導要領を踏まえた授業改善を行うとともに、視覚障害教育の専門性を高める。 ・視覚障害教育の専門性に基づくアセスメントを全教員で共有し、幼児児童生徒の指導計画を立て、個々の障害に合わせた支援を行う。 ・ICT教育を推進し、個々に対応した教育支援を行い、学習効果を上げる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業公開及び研究授業を実施し、新学習指導要領を踏まえた授業改善について研究協議を行った。また、視覚障害教育の視点から授業を見直し、教職員の専門性を高めることができた。 ・幼児児童生徒のアセスメントを共有し、個々の障害に合わせた支援を行うことができた。 ・個々に対応したICT教育を行い、意欲的に学習に取り組めるように工夫することができた。特に、年間を通じてオンラインで他校との交流・共同学習を進めることができた。
		【高等部】 <ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領を踏まえ、高等部普通科コースごとの特色ある教育課程を作成する。 ・職業学科としての理療科の魅力府民にアピールする方法を検討する。 ・ICT機器を活用した効果的な学習方法について研究・実践する。 	B	
		【寄宿舎部】 <ul style="list-style-type: none"> ・充実した学校生活を過ごすための基盤となる寄宿舎生活が安心安全なものとなるよう、基本的な生活習慣の確立及び感染症予防を徹底する。 ・各学部との連携のもと、学習時間を確保し、生徒の学習意欲が育つように、個々に応じた支援を行う。 ・幼児児童生徒理解の機会を増やし、各学部と連携して学校行事等に取り組む。 	A	
			B	
			B	
			B	
			B	
教育活動 全般2	<ul style="list-style-type: none"> ・早期支援の観点から医療・福祉・行政機関との連携の強化を図り、教育相談や就学相談を行う。 ・ホームページを活用し、視覚障害教育や教育相談の様子等の情報発信を行う。 ・学部と連携し、視覚障害教育の専門性の発信と継承、発展を積極的に担う。 	【視覚支援センター】 <ul style="list-style-type: none"> ・定期的に乳幼児教室を開催し、視覚に障害のある子どもや保護者の交流の場を提供する。 ・教育機関及び療育機関等に通う幼児児童生徒の保護者に対し、就学や進路等に関わる情報提供、相談を行う。 ・医療・福祉・行政機関に対し、センターの活動内容を周知し、早期連携を図る。 ・ホームページを活用し、教育相談活動の様子や研修会の案内等を発信する。 ・自立活動分野を中心に、校内の視覚障害教育の専門性を強化する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・京都フロンティア及び1組コースは、進学や就職を見据えた教育課程を編成した。2組コースについては、個々の生徒の実態を踏まえた教育課程を実施した。 ・近隣の関係機関へ赴き、対象者及び職員へ説明する機会を設けることで入学相談件数が増えた。 ・全教職員を対象としたICT研修でスキルアップを図ったが、さらなる取組が必要である。 ・舎生の基本的な生活習慣の振り返りや体調変化の把握、日常生活における対応の検証、感染症対策の再検討等に取り組み、健康の維持を図ることができた。 ・学部担任と連携しつつ、個々に応じて学習状況を振り返る時間を設けるなどの支援を行うことができた。 ・視覚支援センターや学部と連携し、サタデースクール等で寄宿舎紹介の機会を設け、寄宿舎見学に対応した。 ・乳幼児教室（あおぞら教室）を3回実施（1月段階）し、視覚に障害のある乳幼児と保護者とのつながりを深める事ができた。 ・日々の教育相談や本校において複数回実施した学校見学、体験授業を含んだ学校説明会やサタデースクールの教育相談等を通じて保護者や本人に対しての情報提供や相談に取り組んだ。 ・関係諸機関を訪問し、センターの活動内容の理解啓発を行い、京都府スーパーサポートセンターやロービジョンネットワーク等との連絡を密にし、連携を強化した。 ・本校ホームページを活用し、あおぞら教室やサタデースクールなどの情報提供や取り組みの様子などの広報活動を行った。 ・学部の幼児児童生徒にかかわる主担当者を決め、自立活動や教科、領域等の授業支援を積極的に行うことで視覚障害教育の専門性の継承に取り組んだ。
			A	
			B	
			B	
			A	

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
組織運営	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚支援センターの機能強化を図り、校外への支援体制を充実すると共に、幼小中学部の一体的運営と、高等部との更なる連携強化を進め、全校として効率的に機能する組織運営を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・将来構想会議を継続し、過去1年半の協議結果の具体化を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・組織改編により、視覚支援センターが学部を支える体制が整った。また、将来構想について、作業チームを再編し、テーマごとの課題に対し協議を重ね、小中高の縦の繋がりを意識した取組を検討した。次年度教育活動の中で具体化していくことが必要である。 ・諸会議や校内研修等のリモート開催を増やし、感染症対策と共に、校地間移動等、業務の効率化に繋がる取組が進んだ。
		<ul style="list-style-type: none"> ・各会議のスリム化と一層の効率化を進め、「働き方改革」を意識した組織運営を図る。 	B	
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人に応じた進路指導の充実 ・大学等への進学、国家試験合格に向けた取組の充実 ・関係機関と連携したキャリア教育・職業教育の推進 ・自ら進路を切り拓く態度や能力の育成 ・進路先開拓の推進と進路先の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・面談等を通して進路希望の把握に努め、一人一人に応じた進路指導を進める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の特性や実態、進路希望に沿った進路計画を立て、担任・学科等と連携しながら進めた。 ・課題提供、補習授業、模擬試験等による学力の把握や向上に努めることができた。 ・見学や実習、同じ障害のある方々の講話等、進路希望に限らず幅広い取組を行い、キャリア教育を進めた。次年度は、各学部における進路に関する取組が、これまで以上に一貫したつながりのあるものにするため、他学部との連携を進める。 ・ライトハウス、大学、企業、事業所、治療院等と連携し、生徒および保護者、教員に情報提供するとともに進路先の確保に取り組んだ。
		<ul style="list-style-type: none"> ・補習授業や模擬試験等を効果的に実施し、希望する大学等への進学、国家試験の合格を目指す。 	B	
		<ul style="list-style-type: none"> ・見学や実習、進路学習等を通して生徒の自己理解を促し、進路に対する関心や態度、職業観・勤労観を育成する。 	B	
		<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との連携、卒業生の追指導、進路先開拓に取り組み、進路に関する新しい情報を収集・提供するとともに、進路先の確保に努める。 	A	
研究研修	<ul style="list-style-type: none"> ・共通研究テーマ「社会生活を見据えた指導～対話的な学びを支える授業改善の視点」に即した校内の研究 ・研修内容の充実 ・専門的かつ実践的な知識と技能の共有化 ・授業力、実践力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・共通研究テーマを踏まえ、各学部における研究の具体的内容に基づく授業改善、研究活動を推進する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各学部の研究授業では、授業改善をすすめるため、協議を行うことができた。今後は医療専門職派遣事業とも関連付け、専門家による講演・助言などを授業改善、研究活動につなげていきたい。 ・コロナ禍での「対話的な学び」「オンライン授業の活用」をすすめるため、①環境整備②指導者のスキルアップ③児童生徒への指導④保護者との連携の4点の視点から課題の整理を進めた。 ・自立活動推進部、視覚支援センター、資料室、ICT教育推進会議等と連携して、基本研修・専門研修を実施することができた。 ・全校授業公開は、一部オンデマンドでの実施を行い、各自の都合の良い時間に、録画された授業を視聴する工夫を行った。コロナ禍でも行える授業公開、研究授業の在り方を、他校の実践なども参考にしながら今後も研究して行く必要がある。
		<ul style="list-style-type: none"> ・「対話的な学び」を実現するために、各学部で行う授業研究を通して、指導者が考慮すべき点について検討する。 	A	
		<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動推進部、校内各組織との連携により、基本研修や専門研修等の充実を図る。 	A	
		<ul style="list-style-type: none"> ・全校授業公開、研究授業の実施と実践事例の共有、活用を行う。 	B	

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
生徒指導 ・ 安全教育	<ul style="list-style-type: none"> ・学部及び寄宿舎との連携強化 ・問題事象等に対して、早期発見と組織的かつ計画的な対応 ・児童生徒の安全・防犯・感染症予防に関する意識の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・事案の状況により、必要に応じて、全校生徒指導部会を実施する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・問題事象の未然防止のために、学部ごとに集会や日々の指導において発達段階に応じた呼びかけ等を行った。 ・年2回のいじめ調査を通じて、実態を把握し、2回のいじめ対策委員会を実施した。小中高等部間の情報共有を図るとともに寄宿舎との連携を図った。 ・児童生徒の指導において、日々、担任が窓口になり、家庭との連携を図った。また、地域の警察や消防署と相談を密に行った。 ・学校安全点検を実施し、学校保健会議で校内の環境情報を共有するとともに、よりよい改善に向けて取り組んだ。 ・校内において誰もが安全に過ごせるようにルールやマナーを徹底するよう発達段階に応じた指導を行った。 ・各校地避難訓練を行った。消防署と連携し、障害の状況を踏まえた避難経路の確認を行った。また、地震発生時の身を守る行動や煙体験ハウスの経験、大徳寺校地における不審者対応訓練により、非常時の対応について理解した。 ・各校地の児童集会、生徒集会や『保健だより』等の配布物、日々の指導において、感染症予防について一層の理解促進を図った。また、登校時の児童生徒の健康チェックや校内施設・設備の消毒作業を全教職員で毎日行った。
		<ul style="list-style-type: none"> ・「いじめ防止基本方針」に基づき、家庭・地域社会・関係諸機関と連携しながら幼児児童生徒の発達段階を踏まえ、きめ細やかな指導を推進する。未然防止を第一に、早期発見、早期解消へ至る一連の対応を徹底する。 	B	
		<ul style="list-style-type: none"> ・安心安全な学校生活を送るために必要なルールやマナーの徹底を図る。また、学校の施設・設備に対し、校内安全点検を実施する。 	B	
		<ul style="list-style-type: none"> ・各校地の特性を踏まえた避難訓練等を実施する。 	B	
		<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒へ感染症予防対策に関する理解を促し、日常的な衛生指導を推進する。 	A	
I C T 教 育 ・ 情報管理	<ul style="list-style-type: none"> ・各学部と連携し、I C T教育の環境を整備する。 ・他府県盲学校及び府内の視覚支援学級と連携し、I C T利活用のシステムを構築する。 ・ホームページを適切に運用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学部の現状を踏まえ、I C Tを利活用した教科学習や交流学习に関する授業の環境を整備する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・I C Tを利活用した教科学習は各学部で行われていたが、本年度は「すべての教職員がI C T機器の活用ができるようになる」というテーマで研究研修部等と連携を行い、基礎的なスキルアップのための研修会を複数回行った。 ・システムの構築までは至らなかったが、他府県や他の視覚支援学校との共同学習は各学部において複数回実施することができた。 ・校内環境を充実させ、端末等の利用における整備を進めることができた。また、ホームページ等の保守管理を適切に行うことができた。
		<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に学習集団を確保するため、他府県盲学校や府内の視覚支援学級と連携し、I C T利活用のシステムを構築する。 	B	
		<ul style="list-style-type: none"> ・I C T教育を円滑に実施するため、管理体制を充実させ、校内環境(ネット、端末、規定、ホームページ等)の保守管理を適切に行う。 	B	

学校関係者による評価	①コロナ禍の状況を前向きにとらえた教育活動を一層推進すること。②学部間連携を強化することで、生活集団や学習集団を確保し、学びの充実を図ること。③視覚支援センターの取組を充実させ、関係機関との連携を一層深めて行くこと。④児童生徒のキャリア教育を推進し、卒業後も支援が円滑に引き継がれ、継続されること。⑤日々の教育活動や学校の取組について、情報発信に一層努めること。⑥視覚障害教育の専門性向上を図るため、研究研修の内容を充実させること。
次年度に向けた改善の方向性	①学部間連携の一層の強化 → ◆教科指導、自立活動等の充実・強化 ◆I C Tを活用した共同学習、交流学习の推進 ②視覚支援センターの機能強化の継続と校内外の支援体制強化 → ◆各種相談体制と情報発信のさらなる充実 ◆関係諸機関との連携強化 ③卒業後の希望進路(大学等への進学、就労等)実現に向けた指導・支援の充実 → ◆キャリア発達を意識した体験学習、実習等の充実 ◆進学・就労後の支援に関する情報収集と分析